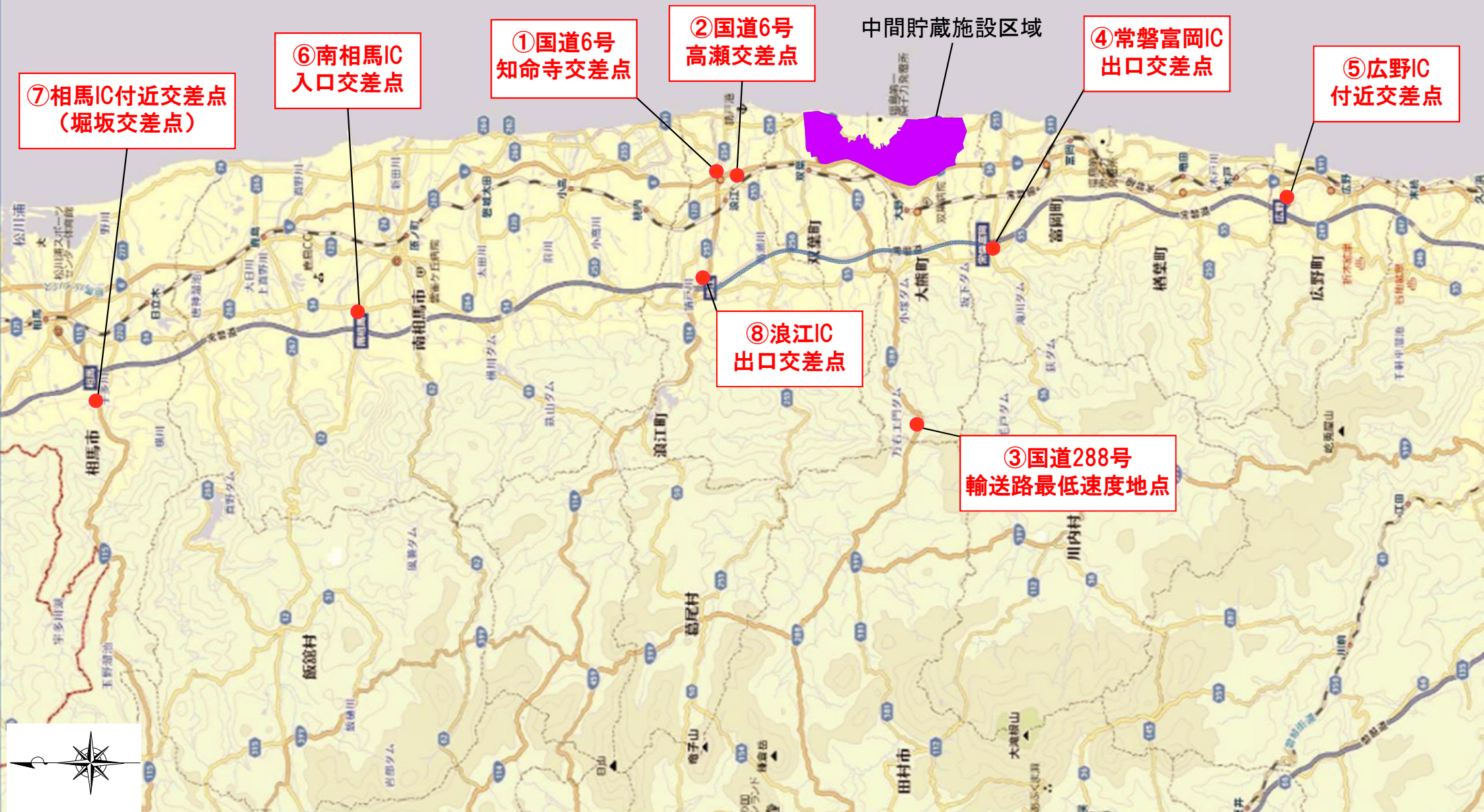


輸送路における放射線量率の測定

輸送車両の通過地点のうち交差点や速度低下地点において、遮へい板付きの測定器を用いて周囲の放射線の影響を除去し、車道から歩道方向に入射する放射線量率の変化を測定している。



輸送路における放射線量率の測定結果

	当該地点を通過した輸送車両数 [台]	うち通過時に線量率の増加が観測されたもの [台]※1	(参考) 当該地点の空間線量率 [μSv/h]	(輸送車両通過時)		
				追加被ばく線量率 (瞬間最大値) [μSv/h]※2	線量率の増加が観測された時間 (累積) [分]※2	追加被ばく線量 (累積) [μSv]
①知命寺	13,847	665	0.14	0.22	150	0.08
②高瀬	30,137	2,076	0.17	0.15	574	0.3
③国道288	16,054	154	0.20	0.04	25	0.009
④常磐富岡IC	70,112	384	0.58	0.07	64	0.03
⑤広野IC	6,463	75	0.15	0.05	12	0.005
⑥南相馬IC	17,426	1,341	0.13	0.17	265	0.2
⑦相馬IC	13,494	771	0.11	0.20	146	0.08
⑧浪江IC	61,556	2,682	0.41	0.24	463	0.3

※1 各地点の放射線量率の測定結果について「測定期間の平均値＋標準偏差の3倍」を超過した輸送車両数。

※2 測定は20秒単位。

輸送路における放射線量率の測定結果(平成30年4月～平成31年3月)

<評価>

輸送車両が通る時などに、数十秒間程度、平常時より高い放射線量率が観測される場合があったが、追加被ばく線量は十分に小さいことを確認した。

引き続きモニタリングを実施し、輸送車両通過時の追加被ばく線量を評価していく。